

決算特集 たいむ、

議会費 1億9,697万円
災害復旧費 2,418万円
労働費 76万円など

万円未満切り捨て

民生費 ①
福祉のために
91億5,032万円

※円グラフ内の①～⑦の
数字は、下の事業ピッ
クアップの費目と対応し
ています

令和6年度の総決算額は407億円で、前年度と比
べ5・5%の増加でした。
そのうち一般会計の支出は256億6921万円で
当初予算から約15億円の増加となりました。収入は
ふるさと応援寄附金、地方交付税などの増加により
前年度と比べ約14億円の増加となりました。

407億円 どう使われた？

ザ・議会視点
令和6年度
市のお金の
使い方

Pick Up
議会の
注目事業

教育 美野里中学校体育館を 改修 2億4,012万円

施設の老朽化に伴い体育館を改修しま
した。改修された体育館には、新たに
空調設備が設置されました。



②

子ども ランドセルを贈呈 757万円

子どもたちの健やかな成長を願い、ラ
ンドセルを贈呈。色は6種類から選べ
ます。子育て支援策としての有効性に
注目。さらなる充実に期待します。



②

子育て 出産祝い金を増額 1,936万円

支給額を見直し、第1子5万円から第
5子以降25万円まで増額しました。出
生数は年々減少傾向で令和6年度は
219人。さらなる子育て支援の拡充を
注視していきます。



①

議会の / ちょっと いいはなし



今後も注目！

「ふるさと応援寄附金」

令和6年度の「ふるさと応援寄附金」は約7億7,000万円でした。この寄附金は給食費無償化や子どもの医療費無償化などに使われています。

議会では、今後もこの寄附金の活用を注視していきます。「この事業に使ってほしい」「こうなればいいな」などのご意見は、プレゼントクイズ(裏表紙)などを通して議会へお寄せください！



ふるさと寄附金
制度については
こちら
(市HP)



全議案の
審議結果は
こちら
(市議会HP)



市の決算概要に
関する詳細は
こちら
(市HP)

商工費 7 4億494万円

農林水産業費 6 8億7,015万円

消防費 5 11億3,526万円

他の会計や
団体への支出等に
12億5,659万円

ごみ処理等、
まちの衛生のために
15億5,947万円

土木費 4
道路、公園整備などに
20億7,480万円

借金の返済に
26億5,851万円

一般会計歳出
256億6921万円

総務費 3
税務事務、
住民票の管理
などに
27億2,163万円

教育費 2
学校教育、
生涯学習
などに
36億
1,556万円

福祉 敬老会で記念品を 贈呈 1,842万円 ①

高齢者の長年の社会貢献に対して感謝と敬意の意を込め、ヨーグルト詰合せや年齢に応じた記念品を贈呈しました。

くらし 道路の維持補修 工事 1億8,635万円 ④

良好な道路環境を確保し、交通安全に寄与しました。

消防 高規格救急自動車 の更新 3,624万円 ⑤

高規格救急自動車を購入し、救急活動体制の強化を図りました。

農業 農業次世代人材投資 資金事業補助金 1,246万円 ⑥

次世代を担う農業者になることを目指して、新たに農業経営を開始する方に、農業開始直後の経営を確立するための支援を行いました。

観光 おみたま大空マルシェを 開催 1,000万円

令和6年9月28日、茨城空港エリアでイベントを行い、8,500名が来場されました。本市の魅力を発信するとともに、交流人口の増加を図りました。



くらし 住宅取得の一部を助成 1,630万円

若年世帯や小美玉市へ移住する方の住宅取得費用の一部を助成することで、人口減少の抑制と地域の活性化を図っています。





妊産婦タクシー利用補助金
については
こちら
(市HP)



決算に対する質
疑・答弁一覧は
こちら
(市議会HP)

安心して子育てできるまちに

出産・子育て応援事業

妊産婦タクシー利用補助金 0円
(新規事業により前年度比なし)

妊産婦が妊産婦健診・出産等で医療機関へタクシーで通院する場合の運賃に対して支払う補助金

◎令和6年度から新規事業で妊産婦タクシー利用補助金が計上されたが、補正予算で減額となった。令和6年度の実績と今後の方針を伺う。

▲令和6年度の利用者は0件であった。今後は、対象者のニーズを反映した制度の見直しを進め、利用周期の修正、助成内容、助成額の見直しを図り、妊産婦が安心して、出産・子育てに臨める環境の整備を進めていく。



妊産婦を支える応援制度の見直しを行い、安心して出産・子育てができる環境整備を目指す。

決算に関する主な質疑 安定的医療の提供へ

医療センター経営改革事業

地域医療存続交付金1億2,974万円(前年度比0%)

小美玉市医療センター開院時の建設費及び病院運営のための安定的な医療提供体制確保を目的として交付される交付金

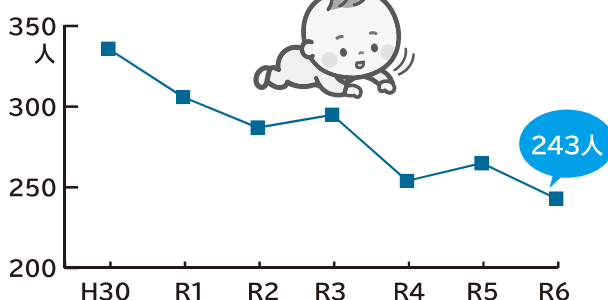
◎現時点で、小美玉市医療センターの経営状況をどのように分析しているのか。

▲内科常勤医師の増員により、外来患者数は毎年増加しており、令和6年度は前年対比3306人増加の5万5151人で、それに伴い医療収益も増加している。令和6年度の経常損益は8731万円の赤字だが、令和3年度の約2億円の赤字からは大幅に縮小しており、医師の働き方改革や物価高騰など厳しい状況下においても、経営努力の結果が見られ、改善していると捉えている。



小美玉市医療センターは(医)古宿会が運営しており、内科や小児科を含む12の診療科が設置されている。

市出生数



小美玉市医療センターの診療科一覧

総合診療科	内科・循環器内科・リウマチ内科
呼吸器内科	消化器外科
整形外科	耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科
泌尿器科	眼科
皮膚科	脳神経外科
リハビリテーション科	小児科



低額所得者への住宅供給

住宅管理事務費

557万円／前年度比375%

住宅に困窮する低額所得者に対し、安価な家賃で賃貸する市営住宅を供給することで、市民生活の安定と社会福祉の増進に寄与する。

◎耐用年数を経過している住宅の退去状況は進んでいるのか。また、退去後の住居の確保状況は。

▲耐用年数を経過している住宅は、「公営住宅等長寿命化計画」などに基づいて解体を予定。現在、市営住宅の入居者へは、市営住宅の用途廃止に伴う移転の交渉を実施。退去後の住居は市営住宅への移転希望者が多いことから、新規募集を控え、空き部屋を確保している。県営住宅への希望者には、スムーズな入居のため、県住宅担当に取次ぎするなどの対応に努めている。



市営住宅は老朽化が進んでいる。市では、現在7か所の市営住宅を管理している。

空き家対策早急に

空家等対策推進事業

153万円／前年度比-46.8%

特定空家などの措置の推進を図るとともに、空家等の活用対策を推進する。

◎空き家の利活用を推進するに当たり、どのような対策を講じたのか伺う。

▲市で把握している空き家は1154軒であり、管理不全になる前の対策として、おくやみデスク窓口や水道休止届などの手続時に、空き家バンク登録への啓発チラシを配布している。

今後は空家等管理活用支援法人（現在は1団体を指定）に別団体を追加指定し、新たな事業展開を実施する予定である。



市内の空き家は把握しているだけで1154軒。利活用の推進など、早急な対応が求められる。

市営住宅一覧と建設年度

住宅名	建設年度	募集状況
大黒団地	平成3年	募集停止
大塚団地	昭和61年	
ハトリ第2団地	昭和58～60年	
雷神前住宅	昭和60年	
上吉影住宅	昭和51年	
下田住宅	昭和45～46年	
山川住宅	昭和41～42年	

市で把握している空き家の数

